

令和2年度第2回伊予市総合計画策定審議会会議録

日 時：令和2年12月4日（金）13時30分～14時30分

場 所：伊予市庁舎3階庁議室

出席者：前田真会長、河合浩二副会長、東渕則之委員、高岡公三委員（代理）、西田和真委員、村上縁生委員、出来和人委員、亀岡功生委員、土井一成委員、大西聡委員、岡田智恵委員、沖田誠二委員

欠席者：田中美和委員

事務局：未来づくり戦略室（皆川・岡井・曾我部）

1 開 会

委員1人の欠席の報告を行い、会議の成立を確認した。

2 議 事

(1) 第1回会議録の確認について

(事務局)

初回ということで、委員に委嘱状及び任命状を交付し、会長・副会長の選出を行った。議事に入り、総合計画と総合戦略の2計画について説明し、それぞれの進捗状況の報告を行った。また2つの計画を一本化するという報告をした。その後伊予市の人口の見通し、計画策定の方針を説明し、委員それぞれから本市に関する課題や問題等発言いただいた。審議会の日程を確認し、会を閉じている。

(会長)

前回の会議内容で質問や確認事項があれば出していただきたい。会議録は公開するというのでよいか。意見がないようであれば、この内容にてホームページに掲載する。

(2) 総合計画策定に向けた進捗状況（調査概要）について

(事務局)

資料1～3を用意いただきたい。資料1、2を中心に説明する。

資料1の冊子は、現行の伊予市総合計画の基本計画に当たる部分、24の施策それぞれに関し、担当課に向け、施策の目標や現状、課題などに対し現在調査中のシートとなっている。

中ほどにSDGsのアイコンを並べており、それより上の部分の着色がないところが現行計画の内容となっている。将来像や基本構想、基本計画、現状と目指すべき方向性、策定当時の課題などの項目がある。次にアイコンの部分、後期計画を策定するに当たり、庁内の若手職員により組織したSDGs推進プロジェクトにおいて、各施策とSDGsの関連付けを行い、優先順位を定めたものとなっている。それぞれのゴールに対し、達成すべきあるいはあるべき姿を想像し、基本計画全体としてあるべき姿をキャッチコピーとして提案してもらっている。次に市民満足度調査結果、これは本年7月に実施した市民満足度調査において、施策に該当すると思われるものを抜粋した。表紙の基本計画を例に言うと、調査に伊予市の住みやすいと感じるところ、不便と感じるところという問いがあったことから、豊かな自然や静かな生活環境があると答えた方が多いという状態だったと記載している。次の表が9月末に実施した市民討議会というもの、これは無作為抽出で選ばれた市民のうち、参加を申し出た方に集まっていた実施した会議である。その会議において議論した施策、市民ができること、コミュニティで取り組むこと、市全体（又は愛媛県）で取り組むことで提案いただいた内容を記載している。議論がなかった施策においても、関連のある意見については記入している。今回の市民討議会は、満足度が低い8施策に絞って意見を頂いていることから、意見がない施策の分野があり、その分野には斜線を引いている。次の表が総合計画策定審議会の項目。前回各委員から意見をいただいております、該当すべき施策のところに表現を加えている。一番下の項目は前期の総合計画になかった総合戦略の項目、例えば結婚・出産については、総合計画にはないものの、総合戦略にあるので加えている。また、国・県で実施している第2期総合戦略で提唱されているICTや5Gを活用した施策、それからアイコンの部分、SDGsの達成に向けた取組、そういうところを新たに加えるべき項目内容として記載している。

これまで説明した前期計画の内容、SDGs推進プロジェクト委員の提案、市民提

案、審議会提案、そして新たに検討すべき内容を参考に、所管課として進めるべき施策の目標や現状と課題、SDGsのゴールとして達成すべき内容を記載するという調査を現在行っている。黄色く着色している部分について各課の調査を取りまとめるということである。

資料2の1枚ものの資料、このシートの内容が後期計画の基本計画レイアウト案として考えているものであり、今説明した調査の結果が、それぞれの施策の目標や現状と課題、SDGsにおける達成すべき目標、あるべき姿、そういう箇所に反映していくということを考えている。このレイアウトについて、今の内容のほかに、第2次伊予市総合計画の策定後に実施した2回の市民満足度調査結果や市民討議会の提案内容を加える想定としている。また、新たな取組として、右下にあるQRコードを配置し、関連する施策については都度サイトで確認できるという紙面で進めたいと考えている。また、現在調査結果の反映先として、網掛けとなっ
て見えない部分については、現在調査している施策の目標、現状と課題が固まった時点で、それらの達成、解決をするためにどういう取組をするのか、その取組の成果をどのような数値で表せるのか、いわゆるKPIの表記を加えることとしている。これらの調査を同時に行うと、現状認識の上での方向性となる恐れがあったことから、まず施策として高い目標を掲げてもらうということで、現在調査を進めている。

資料3について、今回詳しく説明は行わないが、この調査をするに当たり、SDGsそのものが市内でもあまり浸透していない現状があることから、行政がSDGsに取り組むに当たっての必要性が書かれたガイドラインがあったので、SDGsの周知も含め、各所属課に配布した資料であり、今回参考として添付している。

(会長)

ただ今事務局から、総合計画策定に向けた進捗状況として、調査をしているという内容、その調査結果が今後基本計画に反映するイメージ、そういうものを表してもらったかなと思う。これらの概要についてご意見をいただきたい。

資料1が調査している内容で、24の施策ごとに調査している。それらが総合計画にどう反映するかという、総合計画の中身のイメージが資料2になるというこ

とである。そのまとめ方や調査報告について、意見があれば出していただきたい。

新しい取組として、ページごとにQRコードがあり、スマホで簡単に検索できるコードを付けるということなので、かなり新しい取組を始めているかなという感じがする。内容的にもSDGsをすごく重視しており、施策とSDGsの絡みが表記されている。この辺りが特徴として挙げられる。その辺について確認いただければということである。

(委員)

資料1で言うと、現状と目指すべき方向性とか、SDGs推進プロジェクトからの提案という記載があるのだが、ここに書かれた内容や文言をベースに、我々ができるものを出していくというイメージでよろしいだろうか。

(会長)

その確定内容についてご意見を出してもらいたいと思う。もう少しこういうことを聞いてはどうかということを含め、掲載内容についての話と体裁のイメージについての意見を出していただければと思う。

調査内容の反映については、総合計画の素案にまとまってくる。この内容についてももう一回審議する時間があると思う。その内容を確認いただきながら、意見を出していただければよいと思う。

(委員)

よろしいか。とても分かりやすい資料であると思う。少しお願いというか、今の段階では質問になるかもしれないが、基本目標の各課、部局と言った方が良いかもしれないが、それぞれSDGs関連のゴールを3つ順位付けて示している。これはこのようにバラバラな形なのだろうか。私が申し上げたいのは、部局ごとに全部一覧にしてみると、共通するゴールが見えてくるのではないかと思う。例えば資料2のイメージで、8「働きがいも経済成長も」のところで、達成すべき目標・あるべき姿に掲載しているのは、「中心市街地の活性化により、働きがいのある雇用が促進できるような空間づくりを推進する」と書かれている。しかし「働きがいも経済成長も」ということであれば、必ずしもここだけの具体的な達成すべき目標ではなく、他の部局で挙げられたものを同時に達成していったら、初めて8

番のゴールが実現されていくということになる。したがって、これを一覧表のようなものにして、横串が刺せる形で示したものをどこかに1枚付けていただくとありがたい。

(会長)

はい、貴重な意見ありがとうございます。今は施策ごとにまとまっているけれども、多分いろんなところが関連してつながる部分が結構あると思う。個々の基本計画をこれでまとめていくやり方はできるが、別に一覧表のような形でまとめていくことができると、施策と施策の関連性も含めて、どういうゴールに向かって近づいていくのか表記が分かりやすくなるかもしれないという意見を頂いた。その辺り、事務局から何か考えがあれば発言いただきたい。

(事務局)

後ほど説明する資料4の伊予市総合計画（後期計画）素案の中で、どの部分に配置するかは全体を照らし合わせてからになると思うのだが、この資料の3、4ページのところに今回SDGsの取組という項目を設けている。ここで大きく17のゴールがあるということで触れているのだが、そこの絡み、この後に表示するか、それとも基本構想を掲げた後の施策の取りまとめとして出すのがいいのか、全体との調整を加えた形としたいとは思っているのだが、今提案いただいた横串が刺せるという表現、こちらがその表現の形で出せるかどうか分からないが、たたき台として次回そういうところを出して、また意見を頂ければと思う。現在調査している結果が出た時点で、各ゴールに基づく施策というつながりも出してみたいと思う。ご意見ありがとうございます。

(会長)

そういう形でよろしいか。

このガイドラインという資料3の冊子、何かこういう形で、施策とゴールとの関係みたいなものが参考の冊子、別紙みたいなものがあってもいいのかなと聞きながら思った。なにがしかの形でゴールと施策の全体の関係が見えるような形で整理していけばいいのかなと思う。貴重な意見ありがとうございます。

私からも一言よろしいか。SDGsの17のゴールを見たときに、施策の中の優先順

位で挙がっている施策もあるのだが、17「パートナーシップで目標を達成しよう」は全ての施策に関わるゴールかなと思っている。そういう官民にもあるし市民にもあると思うのだけど、それぞれの協働、パートナーシップのようなことを表現できればいいかなとこの資料を見ながら思った。本当は全部の項目に17が入ってベースとしてあるのが見えたらいいかなと思う。先ほどの意見と合わせ、17の協働、パートナーシップというゴールがベースにあることも共有できればいいかなと思う。その辺りも少し加味していただければいいかなと思う。

かなり分かりやすい、今までにない総合計画のページ構成になっているかなという気もする。協議の時間もあるのでご意見を頂ければと思う。

(3) 第2次伊予市総合計画後期計画（案）について

(事務局)

資料4、第2次伊予市総合計画後期基本計画（素案）について説明する。この冊子が現時点で最新の案ととらえていただきたい。

ページを1枚めくると目次がある。こちらが後期計画の全体の構成案であり、ページ番号を振っているところについては、たたき台ということで案を示している。現時点での内容なので、審議の内容を踏まえて、これらの部分についても修正を加えていきたいと思う。

目次を大きく分けて見ると、序論、基本構想、基本計画、参考資料となる。まず序論について、章立てで4章からなり、策定の趣旨や背景、前回お示しした人口の見通しなど述べている。次の基本構想については、前回の審議会で述べたとおり、10年間の計画ということであり、情勢については、直近の内容を基準として記載、変更しているものの、原則として現行の計画とあまり変わらない内容となっている。続いて基本計画。こちらはページ番号を振っていないものの、先ほど説明した調査中の内容に当たり、この部分が取りまとめ中となっている。ここにある基本目標1～5の5つの目標については、前期計画で既に定めた内容ではあるのだが、1点、基本目標の3「生涯教育都市の創造」という項目について、市民意見として、生涯教育という言葉になると、教育を受けるには先生、師が必要ということで、生涯先生が必要ということには違和感があるという提案があっ

た。教育委員会、庁内において協議をした結果、「生涯教育都市」ではなく「生涯学習都市」と教育を学習に変えてはどうかという意見になったので、差し支えなければ委員の意見も頂ければと思う。最後、参考資料としては、今年実施した市民満足度調査、市民討議会の結果、今回の総合計画の策定過程など掲載する予定としている。

続いて内容をかいつまんで説明していく。1ページ、策定の趣旨として、伊予市の現状に触れている。人口減少、少子高齢化、公共施設の老朽化、空き家の増加、市の財政状況などについて記載している。社会的背景として、甚大化している自然災害、今後発生が予想されている南海トラフ大地震などに備えた対策の必要性、またICT、IT、AIの普及や現在コロナウイルス対策として進む新しい生活様式などを踏まえつつ、まちづくりを進める重要性を述べている。2ページでは、総合計画の位置付けと計画期間を述べている。前回説明したまち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付けを記載し、一体的な計画とすることとしている。3、4ページには、先ほど説明した持続可能な開発目標、SDGsの説明を加えている。5、6ページでは、策定の背景として、伊予市の位置や風土、地域の成り立ち、交通利便性など、いわゆる地域特性を記している。7ページから15ページまでは人口の見通し、いわゆる伊予市人口ビジョンの記述となる。この内容については、前回の審議会でも説明したものである。16ページからが基本構想の説明となる。現行の総合計画とほぼ同様の内容ではあるが、まち・ひと・しごと創生総合戦略を一体化する計画であることから、「まち」「ひと」「しごと」を強調した記述としている。17ページには将来像「まち・ひと ともに育ち輝く伊予市」を掲げている。下方の関係図のとおり、最重要課題に人口減少抑制対策を掲げ、それを解決するために3つの未来戦略プロジェクトを進めることにより、将来像を目指すこととしている。この3つの未来戦略プロジェクトもまち・ひと・しごとに関連することとしており、19ページに未来戦略プロジェクトが施策横断的であると定義している。具体的な戦略については、20ページから掲載している。まず視点と方向性とあり、取組や事業、そして役割分担を記載するという構成で、それぞれのプロジェクトを同じ形式としている。29ページから第2章、施策の大綱として5つの

基本目標を掲げている。この施策部分が基本計画であり、先ほどの担当課レベルでの項目となっている。そして、これまでの内容を図で示した体系図が34、35ページとなる。人口減少という課題に対し将来像を掲げ、それに基づく5つの基本目標をもって、将来像に向けた取組を進めるという構成としている。36ページから各々の施策、現在調査中の24施策が連なる予定となっている。その後参考資料が続くこととなっている。説明が長くなった、以上で説明を終わる。

(会長)

事務局から第2次伊予市総合計画の素案について説明があった。この審議会の意見も含め今後拡充していくということであるが、現時点でこの素案に対して、不明な点あるいは意見があれば出していただければと思う。特に委員に関連のある項目について感想を頂ければと思う。

それから説明にあった基本目標3「生涯教育都市の創造」を「生涯学習都市の創造」としてはどうかという意見もあった。まずこの件について意見を伺えればと思う。いかがだろうか。教育から学習という形に変えていくということである。共に学び合うことも含め、上から伝えるというトップダウン的な話ではなく、ボトムアップを含めた考え方で進めていくというイメージだと思うが、よろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(会長)

では、その表記で今後進めていきたいと思う。

次に、素案についてご意見があればいただきたい。これまで少し議論した内容も含まれているので、その辺も見直しながらご意見いただければと思う。

まず書かれている言葉の問題があるかなと思う。例えば1ページの「コロナウイルス」の対策という表記、これは「新型コロナウイルス」というのかどうか、専門家ではないので、どちらが正しいかよく分からないのだが、その辺りの線引きは確認しておいた方が良く思う。そういうことでも構わない。最近の傾向として、Society5.0という言い方もあるが、それでは少し分かりにくいので、ITとかICTとかAIと言葉を変えているのだろうと思う。その辺の言葉の使い方も含め、

ご意見いただければと思う。

(委員)

私自身まだ整理しきれていないという意味で、ちょっともやもやした発言になってしまうことお許し願いたい。資料4の34ページ、体系図のところ、これまでの総合計画と食い違うかもしれないのもやもやしているところがある。まず最重要課題として、人口減少対策でいいかどうか気にかかる。人口が減っていくのは事実で、これは絶対に止められないと思う。そうであるなら、人口が減った段階でも市民がいきいき幸せに暮らせる伊予市にするにはどうすればいいかと議論した方がいいのではないかという、もやもや感を感じている。

2点目として、そのページの未来戦略1のブルーで表記されている「3万人が住み続けられる環境をつくります」という、「住み続けられる環境」という表現も私の中でもやもやしている。どういうことかということ、印象としてマイナスの印象である。住み続けられる、だから消滅可能性都市にはならないぞというレベルの話と受け取ってしまう。もう少し前向きにできないだろうか。先ほどの人口減少対策というのも時代感覚的に少しずれてきている感じがするのと同じで、住み続けられるというのもずれている感じがする。「住み続けたい環境」だろう。結局は一緒ではあるけれど、住み続けたい伊予市にすることで人口減少が少しでも少なくなる。なおかつ伊予市で暮らしたいと思う人がたくさんいて、皆さんが幸せに暮らせる。そういう、少しポジティブというかアクティブに修正してはどうかという気持ちがある。前期からの流れもあるので、もやもやしていて、きちんと発言がまとまらないまま発言しているのだが、そういうもやとした感じがある。

(会長)

ありがとうございます。全体的な取組の姿勢があって、人口減少対策という言い方をしたときに、人口を減らさないような対策とするのか、言われたように減っても大丈夫な対策としてとらえるのか。それが後ろの施策に反映されてくると思う。確かにそのとらえ方がスタートかなと思った。その点委員の皆さんとしてどうか。ご意見を出していただきたいというのが一つ。

もう一つは「住み続けられる」という、ある意味では成り行きに任せて住み続けられたらいいよね、という話から、こういう環境で住みたいというポジティブな発想があればいいかなということ。先日から宇和島と福島の高校生が災害を通して意見交換の企画を立ててやっているのだが、その時のキーワードが「成り行きの未来からなりたい未来へ」となっている。漠然と暮らしていると成り行きの未来になってしまうかもしれない。だけど災害を経験し、生き残った者としては、やはりなりたい未来、こういう未来があるべきだということをしっかり提案しないといけないという印象があった。その辺のイメージと合う形の表記というか、ものが考えられたらという話だと思うのだが、皆さんいかがだろうか。

(委員)

私は業務で県外からのお客さんの対応をすることがある。先日は北海道から来られたお客さんがあり、愛媛はすごく良い所ですねと。北海道だと冬場はかなり気温が低いし、雪も降って、毎日雪かきしないといけないという状況を考えると、定年になったら愛媛で住みたいという、そういうお客さんもおられる。元々伊予市にずっと住んでいる方はほかがなかなか見えていないと思うのだが、良い所だとアピールしていくのはやはり必要だと思う。そして自分のふるさとに自信が持てないと、今後若い方も残っていかないと思うので、その辺も含め、言葉の使い方は大事になるかなと感じる。

(会長)

ありがとうございます。ポジティブなイメージをもう少し前面に出すと。シビックプライドではないけれど、自分のまちに自信を持って暮らせるようになればいいのかなと思う。ほかの方いかがだろうか。

(委員)

私も先ほどの意見について、住み続けられる環境と言うと、今のままでは住み続けられないのではないかというイメージが湧いてしまう気がする。やはり言葉の表現を少し変えて、例えば「いきいきと暮らせる環境をつくります」とか、ポジティブを出せる表記に変えた方がいいのかなという気がした。

(会長)

ありがとうございます。事務局へのお願いも含めてであるが、この辺り、そういう表記に変えていくということについて、事務局では特に問題はないか。

(事務局)

この計画は5年前に策定、検討したのはさらに1、2年前である。その当時は地方創生の話、先ほど会長が言われた消滅可能性都市の提言が出された時期であり、伊予市はその時消滅可能性都市にはリストアップされていなかったのだが、おそらく当時の委員に危機感があったため、こういう表現になったと思う。提案いただいた内容も、言葉の表現の仕方であり、住み続けたいという方向性は大きく変わらないと思う。言葉の選び方は再度検討させてもらえばと思う。

(会長)

では、その辺り少しポジティブな表記に変えてもらうという形で検討いただければと思う。ほかの皆さんいかがだろうか。全体の構成についても大丈夫である。

(委員)

今言われた言葉選びの関係である。24ページにある「あじなまち応援プロジェクト」の視点と方向性に内容が書かれているのだが、あじなまち応援プロジェクトとそこに書いているに内容が、私の中で完全にリンクしないというのがある。

(会長)

24ページ、あじなまち応援プロジェクトという名前のイメージと、内容に少しギャップがあるのではないかという話である。あじに関する話が2行しかないというイメージだろうか。

(委員)

チャレンジショップ等が出せるようなモデルとか、空き家を活用するとか、すごく良いことを書いてあるのに、何となく分かりづらいと思う。読んでもらうと分かるのだが。

(会長)

ほかの委員の皆さん、いかがだろうか。違和感があるという感じか。あじが単なる味なのか、例えばあじのあるまちという表記なのか。その辺り混乱するという

のがある。両方取れるので、その辺の言い方の問題があるという感じである。ほかに良いアイデアがあるというのがあれば…いかがだろうか。その辺、誤解を生まない表記ができればいいかなと思う。書いてある内容はこれで良いけど、あじなまち応援プロジェクトという表記…

(委員)

どちらかと言えば、これがすごく重要なのかどうかという点がある。

(会長)

おっしゃるとおりである。少し言い方を変えた方が良いという判断である。前後のつながりとか、過去の経緯を含めて、変更もありかなと思うのだが、その辺りのイメージはどうか。

(事務局)

素案の20ページからそれぞれのプロジェクト、皆さん伊予市へいらっしゃいプロジェクトなどがあるのだが、このベースとなっているのは、総合計画を策定するに当たり、市民の方に集まってもらって、どういうことをすれば伊予市が元気になるとか、まちが活性化するとか、そういう頂いた意見の内容となっている。そこで行政がどういうことをすればいいか、市民がどうすればいいか、事業者がどうすればいいかという提案をまとめた形となっている。

事務局からの提案も含めて、ということになるのだが、今年度実施した市民討議会の内容についても、説明で調査中と報告した資料1について、下から3段目の表、市民討議会からの提案ということで、ここでは市民でできること、コミュニティで取り組むこと、市全体で取り組むことという意見が出ている。個々の基本計画となると、ある程度担当課が絞られた形になってくるのだが、市民はこの課にこういうことをしてほしいというのではなく、伊予市にしてほしいと。いわば横断的な考えとして素直な意見が出ている。今回の市民討議会は満足度が低い施策に視点を当てて、その施策に対する市民の意見を求めたのだが、その施策のところだけではない意見も多々あると思う。

この基本構想の部分は10年間の計画であり、一旦基本構想で決めた内容についてはあまり変えないと発言をしたのだが、今回の市民討議会の提案についても、

この基本構想における視点や方向性とかぶっている部分もあると思う。課題として残っている内容の発言を頂いているところもあるので、今頂いた意見も含め、もう少し内容を整理して、プロジェクト名もこれでいいのかどうか踏まえ、整理した形で提示させていただければと思う。

(会長)

ありがとうございます。あじなまちが食文化ではないあじのイメージなのかなという気もする。

(委員)

あじというのは味覚という意味ではない。過去の取組を見ていると、いろいろなキャラクターを作ったり、地域のブランド品を認定したりと、もう定着しているのかなと思う。味覚ではないと知っている気はする。

(会長)

あじわい深いまちというとらえ方かなと思う。その辺り混乱しない形の表記も必要かなと思うので、その辺り再度検討いただいて提案してもらおう形でよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

(会長)

ありがとうございます。こういう風に役割分担という形で整理されているのは、自分たちで何をしないといけないのか、イメージしやすい表記かなと思う。この辺りいかがだろうか。よろしいか。何かあれば後で事務局に提案いただければと思う。

(4) 今後のスケジュール（案）及び審議会日程について

(事務局)

本日配布している資料5、第2次伊予市総合計画（後期計画）策定スケジュールと1月・2月のカレンダーを用意いただきたい。

これまで第2次伊予市総合計画策定に関し、実施してきた内容を大きく分けて、事務局、審議会、市民参画、SDGs関連のそれぞれの取組を時系列にして表示している。灰色部分が実施済みのもの、赤色が今後の予定となっている。

総合計画については、前回の説明のとおり、今年度中に策定する必要があることから、3月の定例議会に諮る予定としている。また、計画案に関しては、市民意見公募手続条例という法令があり、それに基づき市民にも意見を求める期間を設けたいと考えている。条例では20日間以上とあり、20日間の期間は取りたいと考えている。議会の日程はまだ決まっていないが、2月の下旬頃から始まるという想定としている。それまでに市民意見公募の反映が確定していないといけなないので、資料にある日程を考えている。本審議会をどういう形で進めるかといえば、市民意見公募前に、先ほど基本計画部分、それから基本構想のプロジェクトに修正を加えた計画について、一度確認、意見を頂きたいと考えている。また、市民意見公募期間中に出た意見、またその間に調整・修正をしたものを含め、2月に最終確認ということで確認をいただき、答申に進めていただければと考えている。非常にタイトな計画スケジュールとなっているが、委員の皆さまの協力をお願いいただければと思う。

ピンポイントにはなるのだが、1月については、11日の週（11日は成人の日のため除く。）に1回、2月については、2月の第1週若しくは2週目の前半でもう一度審議会を開催いただければと考えている。開始時間は特に決めていない。本日日程案が決まるようであれば、本日欠席されている委員の方々にも通知することとする。

（会長）

事務局から今後の策定スケジュールということで、あと2回審議会を行うということであった。1回目は市民意見公募前に、基本計画部分を踏まえた内容についての確認、意見を頂く。もう一回については、市民意見公募を受けた後で確認すると、2回の想定をされている。皆さん日程が大丈夫ということであれば決めていきたいと思う。

協議の結果、次回の審議会を1月12日（火）10時から、2月の審議会は2月5日（金）10時から若しくは13時30分からのいずれかで調整することとした。

(5) その他

(事務局)

次回の審議会が計画全体を確認いただく回となる。1日でも早く資料を送付したいと考えている。年末年始の忙しい時期に当たると思うが、よろしく願いする。

(会長)

その他、何も無いようであれば、以上で議事を終了する。協力ありがとうございました。

3 閉会

(事務局)

以上をもって、第2回総合計画策定審議会の全ての予定を終了した。これにて閉会とする。